

## 論文

# 特別活動の研究（その3）

生野金三・豊澤弘伸・北村好史・中谷陽子

A Study of Special Activities

SHONO Kinzo, TOYOSAWA Hironobu,  
KITAMURA Yoshifumi, NAKATANI Yoko

## I はじめに

前稿「特別活動の研究」（その2）においては、昭和33年に改訂された小学校と中学校の学習指導要領（2次改訂）と昭和43年に改訂された小学校の学習指導要領（3次改訂）、昭和44年に改訂された中学校の学習指導要領（3次改訂）等に視点を当て、そこにおける特別活動の様相を探った。昭和33年に改訂された小学校と中学校の学習指導要領においては、特別活動に関する内容がいずれも特別教育活動、学校行事等と初めてその名称が統一され、従来に比べて特別活動が飛躍的に充実し、そして粗現在の原型が成立したのである。しかし、特別活動の原型が成立したとはいえ、そこには新たな問題が生じてきた故、その解決のために昭和43年の学習指導要領（小学校）と昭和44年の学習指導要領（中学校）においては、いずれもその内容を特別活動の一領域として位置付けられたのである。そこには、人間形成の上から調和と統一の発達を志向し、そのもとに新たにその指導を重要視していこうとする背景が存在したからである。

以上のことに鑑み、本論では昭和52年以降の学習指導要領における特別活動の本質を、学習指導要領の歴史を追うことによって探ることを目的とする。

## Ⅱ 戦後の特別活動

### 1 「特別活動」（小学校・中学校）

[昭和52年の『小学校学習指導要領』昭和52年の『中学校学習指導要領』]

昭和52年12月に教育課程審議会は、「教育課程の基準の改善」について答申し、「ア 人間性豊かな児童生徒を育てる。イ ゆとりあるしかも充実した学校生活を送れるようにする。ウ 国民として必要な基礎的・基本的な内容を重視するとともに、児童の個性や能力に応じて教育が行われるようにする。」<sup>(1)</sup>等の三者の改善の基本方針を示した。これらの方針に基づき、特別活動の内容についても、児童の人格形成に重要な役割を果たす故、各教科等の授業時数の削減（例えば、教科別時間数で国語が週当たり2時間減で44時間、社会3時間減で16時間となっている。）によって生じた時間の活用等も考慮して一層の充実を図ることが必要であるとされた。<sup>(2)</sup>そのことは、学校教育法施行規則に特別活動の年間の標準授業時数が新たに加えられたことよりも窺い知ることができよう。更に、学校においては、勤労に関する体験的な学習の必要に鑑み、各学校の実情に応じて勤労・生産の行事等が学校行事の中に新たに加えられている。斯様にして特別活動の持つ意義がよりよく認識され、その充実が図られたのである。

この答申の趣旨に基づいて、昭和52年に小学校と中学校の学習指導要領が改訂されたのであるが、特別活動においては、小学校と中学校との関連を密にし、一層の充実を図る立場より、小学校と中学校の目標を同一のものとし、そして目標の中に「集団の一員としての自覚を深め」と「自主的」という文言が新たに加えられたのである。その目標とは、

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達を図り、個性を伸長するとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

である。目標の最初の「望ましい集団活動を通して」という部分は、特別活動の特質であり、またその目標を達成するための方法原理である。このような活動を通して「心身の調和的な発達」「個性の伸長」「集団の一員としての自覚」及び「協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度」を図ることが特別活動の目標において強調されている。<sup>(3)</sup> ここで言う「望ましい集団」とは、集団における各人がその中で埋没することなく、相互に人格を尊重し合いながら、民主的な手続きによって集団に対する所属感や連帯感を一層深めるような集団である。したがって、特別活動においては、斯様な望ましい集団への形成の指導が基本であるといえよう。次いで、「心身の調和の取れた発達を図り、個性を伸長する」という部分では、個々人が将来の社会において自己実現を図るために必要とされる資質に触れ、その基礎の育成について強調している。具現すれば、ここでは集団の一員としての個々人の個性や能力を認め合い、その特性を踏まえつつ、知、徳、体、つまり知、情、意、体等の心身の調和のとれた発達を助長していくことを強調している。斯様な背景には、教育課程の基準に関する改訂に際して、その基本方針として「知・徳・体の取れた人間性」<sup>(4)</sup>の育成が強調されたということがある。更に、「集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。」の部分は、個性の伸長と社会性の育成についての目標を端的に現している。ここでは、自己の所属する集団の中で、自己の役割を自覚し、そして仕事を他者と協力して遂行するという所属感や連帯感を持って、集団生活の向上のために進んで力を尽くそうする態度を養うことを強調している。目標にある「自主的、実践的な態度」の育成は、言うまでもなく「望ましい集団活動を通す」ということが前提となるのである。

まず、小学校の特別活動の様相（小学校の特別活動は、前述した「目標」

と「内容」、「指導計画の作成と内容の取扱い」等の項のもとに明示されている。)を以下に見てみる。その内容構成は従来通り三領域と成っている。その中で、学校行事において多少内容が加えられている。従来は五種類の行事が掲げられていたが、今回はそれに「勤労・生産的行事」が加えられている。まず、特別活動の内容を示しておく。

○ **特別活動（小学校）**

A 児童活動

- ・学級会活動
- ・児童会活動
- ・クラブ活動

B 学校行事

- ・儀式的行事
- ・学芸的行事
- ・体育的行事
- ・遠足・旅行的行事
- ・保健・安全的行事
- ・勤労・生産的行事

C 学級指導

- ・学級生活や学校生活への適応に関する指導
- ・保健・安全に関する指導
- ・学校給食の指導、学校図書館の利用指導

(1) A 児童活動

● 児童活動の目標と内容

児童活動の目標は、小学校の学習指導要領には掲げられていないが、『小学校指導書 特別活動編』においては、概ね以下のように考えられるとしている。

児童の自発的、自治的な実践的活動を通して、健全な自主性と豊かな社会性を育成し、個性の伸長を図る。

- ① 所属する集団の一員としての役割を自覚し、集団の運営に進んで参加し、その向上発展に尽くす態度を育てる。
- ② 他の成員と協力して、楽しく豊かな生活を築くことができるようにする。

これは、集団の目標について共通理解を深めさせ、加えて実践を通して集団の一員としての役割を自覚させ、積極的に集団の向上発展に寄与できるようにさせることを願って設定されたものである。

ところで、目標の後段に掲げられている「健全な自主性」や「豊かな社会性」や「個性の伸長」等は、当然各教科を始め学校の教育活動全体の中でも考慮されなければならない。これらは前段に示されている「児童の自発的、自治的な実践的活動を通して」達成されるものである。この「児童の自発的、自治的な実践的活動」を展開する際には、指導者である教師は児童の発想や創意を十分尊重して対処する必要があるとする。

次いで、「児童活動の内容」であるが、それは前述のごとく「学級会活」「児童会活動」「クラブ活動」の三者によって成っている。

まず、「学級会活動」について見てみる。「学級会活動」をめぐっては、学習指導要領において、

学級会は、学級の全児童を持って組織し、学級生活における諸問題を話し合い、その解決を図る活動及び学級内の仕事の分担処理に関する活動を行うこと。<sup>(5)</sup>

と示されている。学級会活動においては、学級生活における諸問題を話し合い、解決する活動と学級内の仕事を分担処理する活動との二者の内容が掲げられている。これらは一体的、有機的な関連のもとに運営されることが重要である。その運営をめぐっては、言うまでもないことであるが、特定の児童に任せることなく、学級の総ての児童が何等かの役割を分担して、学級集団の向上発展に尽くすことができるように指導していくことである。

次いで、「児童会活動」をしてみる。「児童会活動」をめぐっては、学習指導要領において、

児童会は、学校の全児童をもって組織し、学校生活における諸問題を話し合い、その解決を図る活動及び学校内の仕事の分担処理に関する活動を行うこと。<sup>(6)</sup>

と示されている。児童会活動においては、学校生活における諸問題を話し合い、解決する活動と学校内の仕事の分担処理する活動との二者の内容が掲げられている。これらも学級会活動と同様に一体的、有機的な関連のもとに運営されることが重要である。児童会活動は、全校の児童をもって組織しなければならないが、しかしその運営をめぐっては主に高学年の児童が行うものとされている。その際、活動内容は全校的視点より捉えて、児童の負担過重にならないように指導していくことである。

最後に、「クラブ活動」をしてみる。「クラブ活動」をめぐっては、学習指導要領において、

クラブは、主として第4学年以上の同好の児童をもって組織し、共通の興味や関心を追求する活動を行うこと。<sup>(7)</sup>

と示されている。クラブ活動においては、学級や学年のわくを越えて同好の児童によって組織される故、その活動に当たっては共通の興味や関心を集団で追求することである。ここでは、各教科等の単なる延長に終わることのないように指導することである。

## (2) B 学校行事

### ● 学校行事の目標と内容

学校行事の目標は、小学校の学習指導要領には掲げられていないが、『小学校指導書 特別活動編』においては、概ね以下のように考えられるとしている。

学校生活に秩序と変化を与える集団活動によって、児童の心身の健全な発達を図り、併せて学校生活の充実と発展に資する。

- ① 行事に積極的に参加させ、日常の学習成果の総合的な発展を図る。
- ② 全校及び学年集団への所属感を深めさせると共に、集団行動における望ましい態度を育てる。

これは、各教科、道徳、特別活動における児童活動及び学級指導等の日常の学習や経験を総合的に発揮させ、その発展を図ることを願って設定されたものである。

ところで、目標に掲げられている「学校生活に秩序と変化を与える集団活動」には、他の教育活動においては容易に体得することが不可能な教育的価値を実現する場としての学校行事の特質が内包されている。ややもすれば単調になりがちな学校生活に望ましい秩序と変化を与える学校行事を適切に計画し実施することによって、個々人の生活にリズムを与えたり、節目を付けたりしてよりよい生活を作り出すのである。斯様にして「児童の心身の健全な発達を図り」併せて「学校生活の充実と発展に資する。」ことが可能になるのである。

そして、これらのことを受けて目標①においては、学校行事が他の教育活動における学習なり経験なりを総合的に取り入れ、その発展を図る教育活動であること<sup>(8)</sup>としている。ここからは、学校行事が適切に行われるためには学校の教育活動が調和のとれた適切なものであることが要求されること、そして平常の各教科等の学習が充実したものであることによって学校行事も成果を挙げ、実りあるものとなり得るといったこと等を窺い知ることができよう。

更に、目標②においては、学校行事が「全校及び学年集団への所属感」や「集団行動における望ましい態度」を育てるものであること<sup>(9)</sup>としている。学校行事は、全校乃至学年という大きな場で、集団が一つのまとまりとして組織的に行動するところにその特質が存在する。斯様な全校乃至学年という大きな集団の中で、この集団を構成する児童達が喜びや苦勞を分かち合いながら相互に協力しあうことによって所属感や一体感が深められ、そして、規律、責任等集団行動における望ましい態度が養われるのである。

次いで、「学校行事の内容」であるが、それは前述のごとく「儀式的行事」「学芸的行事」「体育的行事」「遠足・旅行的行事」「保健・安全的行事」「勤労・生産的行事」の六者より成っている。上記の六種類の行事は、各学校において必ず実施されなければならない。

#### ・儀式的行事

儀式的行事は、学校生活に有意義な変化や折り目を付け、清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるような活動である。この種類の行事としては、入学式、卒業式、始業式、終業式、国民の祝日における儀式、朝会、開校記念に関する儀式、新任式、離任式等がある。

#### ・学芸的行事

学芸的行事は、平素の学習活動の成果を総合的に生かし、一層の向上を図ることができるような活動である。この種類の行事としては、学芸会、展覧会、作品展、クラブ発表会、音楽会、音楽鑑賞会、演技鑑賞会、映画会等がある。

#### ・体育的行事

体育的行事は、心身の健全な発達と体力の向上に資し、公正に行動し、協力して責任を果たす態度を育てることができるような活動である。この種類の行事としては、運動会、競技大会、水泳大会等がある。

#### ・遠足・旅行的行事

遠足・旅行的行事は、校外において見聞を広め、集団生活のきまり、公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動である。この種類の行事としては、遠足、修学旅行、野外活動等がある。

#### ・保健・安全的行事

保健・安全的行事は、心身の発達、健康の保持増進などについての理解を深め、安全な行動が体得できるような活動である。この種類の行事としては、健康診断のための行事、大掃除、避難訓練、交通安全指導、保健や安全に関する意識を高める行事等がある。



・勤労・生産的行事

勤労・生産的行事は、勤労の尊さや意義、奉仕の精神などが体得できるような活動である。この種類の行事としては、飼育栽培活動、校内美化活動等がある。

(3) C 学級指導

● 学級指導の目標と内容

学級指導の目標は、小学校の学習指導要領には掲げられていないが、『小学校指導書 特別活動編』においては、概ね以下のように考えられるとする。

学級における望ましい人間関係を基盤とし、児童の心身の健康を増進し、健全な生活態度の育成を図る。

① 日常生活を営むために必要な行動の仕方を身につけさせる。

② 集団の中で、自己を正しく生かすことができるようにさせる。

これは、児童の様々な学習活動や学級生活が、児童にとって好ましい状態で展開され、そして学級集団が好ましく形成され、また一人一人の児童がその集団によく適応し、望ましい生活態度を身に付けることを願って設定されたものである。

ところで、目標に掲げられている「児童の心身の健康」「健全な生活態度」等を見てみると、学級指導は児童活動や学校行事と相俟って、共に特別活動の全体の目標の達成を図ろうとしていることが分かる。言うまでもないが、学級指導は学級の児童の学習や生活の実態を十分踏まえ、それに密着した指導を行うことがその特色である。そして、学校生活の場で生きて働く知識、態度、習慣等を確実に身に付けさせることである。

次いで、「学級指導の内容」であるが、それは前述のごとく「学級生活や学校生活への適応に関する指導」「保健・安全に関する指導」「学校給食の指導、学校図書館の利用指導」の三者より成っている。「学級指導」をめぐっては、学習指導要領の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」に、

これらの学級指導の内容として掲げる各事項については、

学校や学級の実態に応じて計画的に取り上げて指導するものとする。<sup>(10)</sup>

と示されている。斯様なことより内容を選択するに当たっては、常に学校の教育目標、地域や学校の実情、児童の実態等を確り捉え、学級指導として不可欠内容を選ぶことが大切である。

#### (4)「指導計画の作成と内容の取扱い」

最後に「指導計画の作成と内容の取扱い」について以下に簡約する。ここでは、「指導計画」をめぐっては「1 学校の創意を生かすとともに、児童の発達段階を十分考慮して作成するものとする。」とし、そして児童活動については「特に児童の自発的、自治的な実践活動が展開されるように配慮する必要がある。」としている。ここからは、実際の活動に当たって、学校生活や学級生活の流れの中で生起する諸問題に児童の手によって一層具体的な実施計画が立てられるよう弾力性、融通性に富むものでなければならないとすることの一端を窺い知ることができる。斯様な背景には、教育課程の基準の改善の基本方針に「ゆとりあるしかも充実した学校生活を送ること」受けて、「弾力性」が図られることが強調されているためである。

次いで、「学級会活動、クラブ活動及び学級指導」のそれぞれに充てる授業時数をめぐっては、「2 学校や学級の実態を考慮して適切に定めるものとする。」としている。「学級会活動、クラブ活動及び学級指導」に充てる各学年の授業時数は、第1学年34単位時間、第2、3学年それぞれ35単位時間、第4、5、6学年それぞれ70単位時間を標準とすると示されている。

更に、学校行事の際の「儀式を行う場合」をめぐっては、「3 児童に対してこれらの祝日のなどの意義を理解させるとともに、国旗を掲揚し、国歌を斉唱させることが望ましい。」としている。ここで着目すべきことは、従来の「君が代」が「国歌」と改められたことである。

最後に、「C 学級指導」の取扱いをめぐる、「4 学校や学級の実態に応じて計画的に取り上げ指導するものとする。」とし、学級指導は必要に応じて計画に弾力性、融通性を持たせることを強調しているように思える。

次いで、中学校の特別活動の様相を以下に掲げる。中学校の特別活動も小学校同様に「目標」「内容」「指導計画の作成と内容の取扱い」等の項のもとに明示されている。内容の構成は従来通り三領域となっている。その中で、学級指導の領域において多少内容が加えられている。学級指導では、学業指導と進路指導に関わる例示項目が増加されている。前者の学業指導では、「選択教科等の適切な援助、学業上の不適応の解消、学習の意欲や態度の形成、学校図書館の利用の方法」等が例示され、一方、後者の進路指導では、「進路適性の吟味、進路の明確化、適切な進路選択の方法」等が例示されている。内容の変更ではないが、生徒活動の内容配列が学級会活動、生徒会活動、クラブ活動の順に改められている。まず、特別活動の内容を示しておく。

○ **特別活動（中学校）**

A 生徒活動

- ・学級会活動
- ・生徒会活動
- ・クラブ活動

B 学校行事

- ・儀式的行事
- ・学芸的行事
- ・体育的行事
- ・旅行的行事
- ・保健・安全の行事
- ・勤労・生産的行事

### C 学級指導

- ・個人及び集団の一員としての在り方に関すること
- ・学業生活の充実に関すること
- ・進路の適切な選択に関すること
- ・健康で安全な生活などの関すること

#### (1) A 生徒指導

##### ● 生徒指導の内容

生徒指導の内容は前述のごとく「学級会活動」「生徒会活動」「クラブ活動」の三者の活動より成っている。これらはいずれも生徒の自主性を尊重し、教師の適切な指導のもとに、それぞれの活動の特質に即して実践を展開していくものである。<sup>(11)</sup> ここには、嘗ての特別活動の特質である「なすことによって学ぶ」という方法原理が存在すると言及されている。これらに共通する特質としては、

- ① 生徒の自発的、自治的な活動を尊重する教育活動であること
- ② 集団生活の向上発展を目指す教育活動であること
- ③ 教師と生徒及び生徒相互の人間的な触れ合いの場であること

等が存在するとしている。まず、①の内容について簡約する。「学級会活動」「生徒会活動」「クラブ活動」の三者の活動は、それぞれ異なる生徒の集団によって展開されるが、しかしこれらの総ては生徒が自発的、自治的に集団活動を展開するという特質を有している。斯様な特質に鑑み、教育効果を高めるためには、それぞれの集団に即した組織を作り、生徒が個々の役割を認識し、活動の計画を立て、実践する機会を豊富に用意する必要がある。次いで、②の内容について簡約する。「学級会活動」「生徒会活動」「クラブ活動」においては、楽しく豊かな共同生活を構築するための活動を計画し、集団に対する所属感や連帯感を育て、自発的、自治的な集団の運営方法を身に付けさせていくなど学校や学級の生活の充実や改善を志向している。斯様なことが延いては特別活動の目標の達成に結び付くのであ

る。最後は、③の内容について簡約する。「学級会活動」「生徒会活動」「クラブ活動」においては、青年期における生徒の有する基本的には要求に基づいた活動を展開し、そしてその充実を図るという特質があり、斯様なことが生徒の人間形成に大きく貢献するのである。

次いで、「学級会活動」「生徒会活動」「クラブ活動」の三者の内容について述べる。まず、「学級会活動」をめぐっては学習指導要領において、

学級会は、学級の全生徒をもって組織し、学級生活における諸問題の解決を図る活動、学級内の仕事の分担処理に関する活動及び楽しく規律正しい学級生活を築くための活動を行うこと。<sup>(12)</sup>

と示されている。ここからは、学級会活動は、学級の全生徒による学級会の組織としての活動を主としてしていると捉えることができる。学級会としての諸活動としては「学級生活における諸問題の解決を図る活動」「学級内の仕事の分担処理に関する活動」「楽しく規律正しい学級生活を築くための活動」等を掲げている。最初の「学級生活における諸問題の解決を図る活動」とは、言うまでもないことであるが当然身近な具体的な学級生活の中での問題を取り上げ、その解決を図っていく活動のことである。ここで言う「身近な具体的な学級生活の中の問題」とは生徒が相互に協力し合えば解決や改善が可能な問題のことである。次いで、「学級内の仕事の分担処理に関する活動」とは、学級の総ての生徒が何等かの役割や仕事を分担し、よりよい学級にするために様々なことを創意工夫して展開する活動のことである。最後の「楽しく規律正しい学級生活を築くための活動」とは、レクリエーション等について、総ての生徒が自分たちで活動の計画を立てたり、あるいは小集団等の組織を生かしたりして様々な活動を民主的に展開していく活動のことである。

次いで、「生徒会活動」をめぐっては学習指導要領において、

生徒会は、学校の全生徒をもって組織し、学校生活の充実や改善向上を図る活動、生徒の他の諸活動についての連絡調整に関する活動及び学校行事への協力に関する活動を行うこと。<sup>(13)</sup>

と示されている。生徒会活動は、全校の生徒をもって組織し、学校における個々の生徒の生活の充実や改善向上を図る活動である。一般的には「生徒総会及び生徒評議会」「生徒会役員会」「各種の委員会」<sup>(14)</sup>の三者の機構より成っている。ところで、生徒会としての諸活動としては「学校生活の充実や改善向上を図る活動」「生徒の他の諸活動についての連絡調整に関する活動」「学校行事への協力に関する活動」等を掲げている。最初の「学校生活の充実や改善向上を図る活動」とは、生徒会の規律や組織の改廃、役員や委員の選出をはじめ、生徒規律、校内美化、会員の福祉、集会、図書、報道等の委員会の組織における活動のことである。次いで、「生徒の他の諸活動についての連絡調整に関する活動」とは、生徒会の行事との関わりにおける学級への様々な連絡調整、加えてクラブ活動、部活動等のための活動の場所や時間の調整を行う活動である。最後の「学校行事への協力に関する活動」とは、学校における様々な仕事を効果的なものにするために生徒がそれぞれの行事の趣旨をよく理解し、協力して行う活動のことである。

最後に「クラブ活動」をめぐっては、

クラブは、学年や学級の所属を離れ、共通の興味や関心を持つ生徒をもって組織することを原則とし、全生徒が文化的な活動、体育的な活動又は生産的な活動のいずれかの活動をおこなうこと。<sup>(15)</sup>

と示されている。クラブの集団は、「共通の興味や関心もつ生徒をもって組織」とあるように、学年や学級の所属を離れ組織することを原則とし、そこにおいて生徒個々人が希望する文化的な活動、体育的な活動、生産的な活動等のいずれかのクラブに加入し、相互に協力し合って多彩な活動を展開するという特色を有している。各クラブにおける活動は、生徒がそれを組織し、具体的な活動の計画を立てて実践していくのであるが、その際の共通することとして「共通の興味や関心の追求に打ち込む活動」「クラブ活動の計画や運営に関する話し合いの活動」「クラブの成果の発表や学校行事に協力する活動」<sup>(16)</sup>が掲げられている。

## (2) B 学校行事

## ●学校行事の内容

学校行事の内容は前述のごとく「儀式的行事」「学芸的行事」「体育的行事」「旅行的行事」「保健・安全的行事」「勤労・生産的行事」の六者の種類によって成っている。これらは、通常の学校生活や学級生活の中で繰り返し行われるわけではないが、全人的な人間形成に寄与する点より重要な内容である。これらに共通する教育的な特質としては、

- ① 学校生活をより豊かに充実したものにする教育活動であること
- ② 多彩な内容を含んだ総合的、創造的な教育活動であること
- ③ より大きな集団による活動であること

等が掲げられる。まず、①の内容について簡約する。学校生活や学級生活はややもすれば単調になりやすいが、斯様な生活に対して学校行事は望ましい変化を齎し、そして彩を添え、折り目を付け、学校生活や学級生活をより豊かにするという価値を有している。加えて、生徒が相互に協力して活動することによって成就感や充足感を体験し、それが延いては校風を育て連帯感を高めるという教育的意義も有している。次いで、②の内容について簡約する。学校行事の大半は各教科等における普段の学習の成果を披露する総合的な場としての教育活動であるという特質を有している。しかも、その内容は多岐に亘り、多様な実施の形態が認められ、学校の状態に応じて様々な創意工夫を生かして実施する可能性が大である。最後に、③の内容について簡約する。学校行事は、全校、あるいは学年という比較的大きな集団の単位による実践的な活動であるという特質を有している。ここでは、他の学年や学級の生徒との交流が存在する故、通常の学級生活では得がたい幅広い人間関係が得られるという点にもその特質が認められる。

次いで、「学校行事」の内容であるが、それは前述のごとく「儀式的行事」「学芸的行事」「体育的行事」「旅行的行事」「保健・安全的行事」「勤労・生産的行事」の六者より成っている。上記の六種類の行事は、各学校において必ず実施されなければならない。中学校の学校行事の内容を一覧

するとき、それは小学校の学校行事と概ね同じ内容となっている。したがって、ここではそれぞれの内容の説明は割愛する。

### (3) C 学級指導

#### ●学級指導の内容

学級指導の内容は前述のごとく「個人及び集団の一員としての在り方に関すること。」「学業生活の充実に関すること。」「進路の適切な選択に関すること。」「健康で安全な生活などに関すること。」の四者の事項より成っている。これらは、個々の生徒の調和の取れた人間の育成を目指す視点より掲げられた事項である。ここでは、個々の生徒の有する力を最大限に発揮させ、そして様々な課題の解決に取り組ませ、個々人の生徒の社会的な自己実現を図るための支援の過程となることを重要視している。これらに共通する教育的な特質としては、

- ① 生徒指導の機能を集約し、充実する役割を持っていること
- ② 学級を単位に生徒の問題の解決を援助する教育活動であること
- ③ 学業生活の充実や進路の選択の能力の育成を計る教育活動であること

等が掲げられている。まず、①の内容について簡約する。ここでは、学級指導は生徒指導の全機能を補充し、深化し、統合することを志向し、生徒指導の一層の充実発展を図るという役割を有していると捉えることができよう。次いで、②の内容について簡約する。学級指導は、その名称が示すように学級を単位とする学級担任の教師による計画的、発展的指導の場である。ここでは、学級指導は生徒の理解を一層深め、望ましい生活態度の育成、そして学業上の問題、発達上の課題等の生徒に共通する心身の悩みや不安等について、教師の指導や生徒相互の協力によって、その解決を図る活動であると捉えることができよう。最後は、③の内容について簡約する。ここでは、生徒の実態より日々の学習に関する悩み、進路に対する不安等踏まえ、学業生活の充実を重視し、学業上の不適応の解消、学習意欲



や態度の形成等、生徒への直接指導の場として学級指導の意義が存在すると捉えることができよう。

#### （4）「指導計画の作成と内容の取扱い」

最後に、「指導計画の作成と内容の取扱い」について以下に簡約する。ここでは、「指導計画」をめぐっては「2 学校の創意工夫を生かすとともに、生徒の発達段階を考慮し、生徒自身による実践的な活動が助長されるように作成するものとする。」とし、そして生徒活動については、「特に生徒の自発的、自治的な活動が展開されるように配慮する必要がある。」としている。これらのことは、充実した特別活動を展開するために必要な計画を立てるための最小限の必要の条件であると捉えることができよう。

次いで、「学級会活動、クラブ活動及び学級指導」のそれぞれに充てる授業時数をめぐっては、「2 学校や学級の実態を考慮して適切に定める時間とする。」としている。「学級会活動、クラブ活動及び学級指導」に充てる各学年の授業時数は、第1、2、3学年それぞれ70単位時間を標準とすると示されている。

更に、学校行事の際の「儀式を行う場合」をめぐっては、「4 生徒に対してこれらの祝日などの意義を理解させるとともに、国旗を掲揚し、国歌を斉唱させることが望ましい。」としている。ここで着目すべきことは、従来の「君が代」が「国歌」と改められた点である。これは、前述した小学校と同様である。

最後に、「C 学級指導」の取扱いをめぐって、5の項に「生徒理解に基づく指導」「人間的な触れ合いの重視」「計画性のある指導」等を強調している。

### III おわりに

本論は、表題に示したごとく、「特別活動の研究」の第3報である。今

回は、小・中学校学習指導要領の歴史を追うことによって、昭和52年以降の特別活動の本質を探ってきた。各教科等の授業時数の削減によって生じた時間の活用等による特別活動の一層の充実、各学校の実状に応じた勤労・生産的行事等の学校行事への位置付け、小学校と中学校との関連を密にするなどの改善がなされた。

一方で、過度な偏差値教育・受験競争に対する反省から、ゆとりある充実した学校生活を標榜し、「ゆとりの時間」が新設された。このような教育課程の基準の改善は、特別活動の持つ積極的な意義を再認識させることとなり、その授業時数の提示・増加など、なお一層の充実が図られることともなった。

斯様にして、集団の一員としての個々人の個性や能力を認め合い、その特性を踏まえつつ、知・徳・体の調和のとれた発達を助長していくことを目指した特別活動の充実が図られたのである。

## 注

- (1) 文部省『小学校指導書 特別活動』東洋館出版 昭和53年 pp.5-6

「教育課程の基準の改善」をめぐる

従来は、「教育課程の改善」と称していたが、それに「基準」という用語を新たに加えて「教育課程の基準の改善」としている。これは、「教育課程の改善」というと、文部省が学校の上に重く押し掛かっているような印象を与える故、それを払拭するねらいがあり、正に法令通りの改善であるということを普く知らしめるためである。

- (2) 同上書 p.6参照

- (3) 文部省『小学校指導書 特別活動』前掲書 p.11参照

- (4) 文部省『中学校指導書 特別活動』大阪書籍株式会社 p.1

- (5) 文部省『小学校指導書 特別活動』前掲書 p.129

- (6) 同上書 p.129

- (7) 同上書 p.129

- (8) 同上書 p.84

- (9) 同上書 p.84

- (10) 同上書 p.131

- (11) 文部省『中学校指導書 特別活動編』大阪書籍株式会社 p.19

- (12) 同上書 p.81

- (13) 同上書 p.81

(14) 同上書 pp. 29-30

「生徒総会及び生徒評議会」「生徒会役員会」「各種の委員会」をめぐっては、『中学校指導書 特別活動編』において、以下のように指摘する。

「生徒総会」—— 全校の生徒による生徒会の最高審議機関である。この総会では、①年間の活動の計画や予算の決定、②年間の活動の結果の報告や決算の承認、③生徒会規約の改正など、生徒会としての基本的な事項について審議を行う。

「生徒評議会」—— 生徒総会に次ぐ審議機関である。概して生徒総会が常置的なものではないので、この評議会が実質的に全校の生徒意思を代表する機関になる。個々では、生徒総会に提出する議案などの審議、学級や委員会から出される諸問題の解決など、生徒会としての活動の種々の計画の審議に当たる。

「生徒会役員会」—— 年間の活動の企画の作成、審議を必要とする議題の提出、各種の会議の招集など、生徒会全体の運営や執行の機関である。この役員会の活動のいかんは、生徒会としての全体の活動を左右するとも考えられる。

「各種の委員会」—— 例えば、生活規律に関する委員会、図書に関する委員会その他学校の実情や伝統によって種々設けられ、生徒会活動の実践活動の面の推進の役割をもっている。

(15) 同上書 p. 81

(16) 同上書 p. 32

各クラブに共通することを具体的に掲げる。

(ア) 共通の興味や関心の追求に打ち込む活動 —— クラブ活動のほとんどの時間がこの活動に充てられるが、クラブの全員が協同して行う場合、幾つかの小グループに分かれて行う場合などが考えられる。

(イ) クラブ活動の計画や運営に関する話し合いの活動 —— クラブごとに全員が集まり、所属するクラブの活動に関する計画や運営についての話し合いを行う活動で、充実した活動の基礎と成るものである。

(ウ) クラブ活動の成果の発表や学校行事に協力する活動 —— クラブの成果を発表する活動や行事として行われる各種の行事に、クラブの立場から協力する活動である。もちろん、この場合には、そのクラブだけで参加するということは少なく、生徒会と協力して活動を進めることになるだろう。